



JICAグローバル・アジェンダ No.20 案件紹介

防災・復興を通じた災害リスク削減

## PROJECT

### 災害復興支援における 遠隔オペレーション

#### コロナ禍にも頻発する災害

新型コロナウイルス感染症がまだ収束を見ないなかでも、自然災害は容赦なく人々の生活を脅かしています。

2021年4月に東ティモールを襲った大規模な洪水、同年12月に発生したインドネシアのスメル火山の噴火、そして2022年1月にトンガで起きた海底火山の噴火と津波災害―。JICAは被災地に緊急援助として必要な物資を迅速に届けるとともに、コロナ禍で現地への渡航が制限されるなか、遠隔オペレーションで復旧・復興に向けた協力を進めています。

#### BBBビジョンで災害に強いトンガへ

世界でも災害リスクが高い国といわれるトンガを襲った海底火山の大規模な噴

火は、地震と津波、降灰を伴い、建物の倒壊、交通や通信インフラの障害など、甚大な被害が発生しました。トンガから遠く離れた地にも予想外の津波が到達するなど、専門家にとっても、そのメカニズムに不明な点が多い災害でした。

JICAは災害復興過程で災害リスクを削減し、以前よりも強靱な国家・社会をつくる「より良い復興(BBB: Build Back Better)」というビジョンの下、「火山噴火及び津波被害に対する災害復興事業形成に係る情報収集・確認調査」の準備を進めました。この調査は、BBBを念頭に今後の具体的な協力事業を形成するために必要な情報の収集と分析を目的としたものです。

BBBの前提としてリスクの把握は不可欠です。そこで、火山噴火と津波のメカニズムや想定災害規模を科学的根拠に基づき検討するため、2022年2月に各分野の第一線で活躍する研究者らによる有識者会議を立ち上げました。日本側有識者らとトンガ関係機関の担当者によるWEB会議を重ね、BBBのビジョンの共有やハザード・リスクの評価に向けた情報収集を行っています。

今後も、状況に応じながら効率的に現地調査を行い、トンガの災害前よりも強靱な国づくりに協力していく予定です。



トンガ：津波が横断し甚大な被害を被ったアタタ島

## DATA

火山噴火及び津波被害に対する  
災害復興事業形成に係る  
情報収集・確認調査

対象国  
トンガ

協力期間

2022年4月-同年12月

## VOICE

### 両国の経験・知見を生かしていきます

JICA調査団

株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル 小竹明夫さん



2022年5月初旬からトンガでの調査を開始し、省庁へのヒアリングやドナーの支援状況、津波被害の大きかった地区や離島の状況、地理空間データ(GIS)などの情報収集を行いました。繰り返し自然災害を乗り越えてきたという共通点を持つ日本とトンガ、相互の経験・知見を生かしたBBBビジョンを実現していきたいと思ひます。